



戦前期七〇年に及ぶ、女性への人権抑圧の象徴であった
公娼制度をめぐつての攻防である廃娼運動と存娼運動、そして
国家の性管理政策を総合的な視野から俯瞰する、
待望の資料集。二六〇余の貴重資料を

収集して堂々の編集復刻！

買売春問題資料集成（戦前編）

復刻にあたつて

戦前の買売春問題は、封建的人身売買からはじまって、海外売春婦問題そして「従軍慰安婦」問題に連なる、近代日本の最暗黒部分である。また明治以降の近代日本における最も深刻な人権問題のひとつでもある。貧窮を極めた階級や農村の娘たちが、安い値で買われ、都市部の遊廓に売られ、男たちの玩弄物となり若くして命を落す状況に対し、ある人道主義者たちはジャーナリズムや廃娼団体でその救援に尽くした。他方で男性中心社会の論理に徹する者たちは遊廓側と一体になって男の「生理」を擁護しました貧しい女性の必要悪であるときもあった。しかしいずれにしても日本国家としての男女の性の管理は、家制度を基盤とする天皇制社会には最重要用件であつて、いずれの動きもその枠をはみ出することはなかつた。例えば、一九三〇年代以降一方で廃娼運動の成果としての廃娼県統出をみながら、戦場で他民族女性を強制連行して性奴隸にすることで日本帝国主義の強化がなされたのは歴史の嚴然たる事実である。

そして今もなお、買賣春問題は「性の商品化」の問題、性差別の問題、戦争と性の問題、南北経済格差や貧困の問題などと複雑に絡み合つており、明らかに解決の方向を見いだせないでいる。戦後五〇年たつてようやく問題の所在が明らかにされつゝある「従軍慰安婦」問題。そして主婦や低年齢層による売春の問題、来日外国人女性売春問題など性をめぐる状況は複雑化・多様化しているが、女を金で売買する、という買賣春の本質は変わつていない。

本「買賣春問題資料集成」は、一八七〇年代から敗戦までの約七〇年間の買賣春を研究するための主要文献二六四点を集め、復刻するものである。本資料集成編集の主目的は、現在も続く買賣春の問題を考察・解決するために、歴史的資料を研究者そしてすべての関心あるひととに提供することにある。よつて基本的には、廃娼運動の資料及び反廃娼運動である存娼運動の資料は入手できるかぎり多く

収録し、花柳界への興味本位の記録や作品は、当時の状況を実態に近く記録した資料的価値の高いものに限つて取り上げるにとどめながら、戦前の買賣春をめぐる状況を総合的に見渡すことができるよう努めた。

収集した資料は、廃娼運動編（第1巻～第6巻）存娼運動編（第7巻～第8巻）法令・規則・統計編（第9巻）研究・論考・ルポルタージュ編（第10巻～第13巻）に分類し、年代順に収録した。

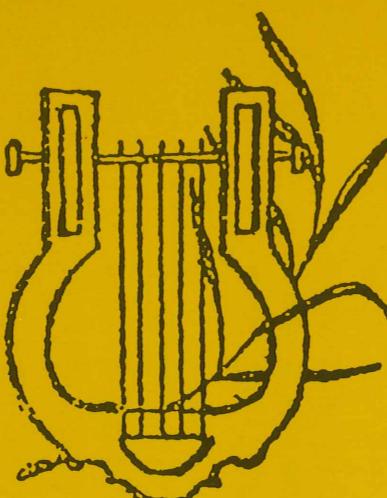
図書館で利用されることを期待するものである。

——不二出版



（内容）

- 第1巻 廃娼運動 I（一八七二～一九二一年）解説
- 第2巻 廃娼運動 II（一九二一～一九二五年）
- 第3巻 廃娼運動 III（一九二六～一九二八年）
- 第4巻 廃娼運動 IV（一九二九～一九三五年）
- 第5巻 廃娼運動 V（一九三二～一九三五年）
- 第6巻 廃娼運動 VI（一九三六～一九四四年）
- 第7巻 存娼運動 I（一九〇〇～一九二五年）
- 第8巻 存娼運動 II（一九二六～一九四〇年）
- 第9巻 法令・規則等 I（一八七三～一九四〇年）
- 第10巻 研究・ルポ等 I（一八七二～一九二一年）
- 第11巻 研究・ルポ等 II（一九三一～一九四〇年）
- 第12巻 研究・ルポ等 III（一九二四～一九二七年）
- 第13巻 研究・ルポ等 IV（一九二八～一九三六年）



廓清会刊
（復刻版）

関連図書のご案内

廓清会刊

明治44年～昭和20年刊

別冊解説（竹村民郎）総目次・索引

B5判・上製・総16,500頁

本体価格 4,995,000円

推薦 番ヶ瀬康子・高橋喜久江・竹村民郎・松井やより

一九一一年、大火後の吉原遊廓復活を契機に結成された廃娼団体

『廓清会の機関誌。各地での運動の状況、娼妓の生活の実態、

買賣春に関する統計など資料、廃娼論などおよそ戦前期廃娼運動の

資料のすべてが網羅されている。

日本キリスト教婦人矯風会刊

明治21年～昭和33年刊

別冊解説（五味百合子）総目次・索引

菊判・上製・総30,000頁

推薦 番ヶ瀬康子・高橋喜久江・田中寿美子・松尾尊允

日本で最も歴史の古い女性団体である矯風会の機関誌である本誌の

復刻によって、女権運動の先駆でかつ大きな柱であった矯風会の

再評価がなされよう。

前身の『東京婦人矯風雑誌』『婦人矯風雑誌』をあわせて復刻。

日本救世軍編

ときのこゑ（全二巻・補巻・別冊）

明治28年～昭和23年刊

補巻『日本救世新聞』「朝のひかり」「のど書」

別冊解説（室田保夫）総目次・執筆者索引 全2巻

A3・B4・A4判・上製・函入 総9,042頁

本体価格 4,000,000円

推薦 朝野洋・番ヶ瀬康子・杉井六郎・高橋喜久江・山室徳子

あまりにも名高い娼妓自由廃業運動とその救済活動・生活困窮者・

無宿者・刑余者対策・結核療養所創設・災害救済……等々、

日本救世軍の業績は、日本近代の社会問題・人権問題及び社会福祉の歴史を語るのに不可欠である。

紅燈下の彼女の生活 日本廃娼運動史

伊藤秀吉著
上毛青年社発行
明治23年～明治24年刊

竹村民郎解説

菊判・上製・函入 3,260頁

本体価格 9,000円

別冊解説（片野真佐子）総目次・索引

A5判・上製・函入 1,234頁

本体価格 36,000円

明治22年～明治29年刊

別冊解説（片野真佐子）総目次・索引

本体価格 7,000円

明治22年～明治29年刊

別冊解説（片野真佐子）総目次・索引

本体価格 8,000円

紅燈下の彼女の生活 694頁 本体価格 8,000円

日本廃娼運動史 610頁 本体価格 7,000円

男女の民主主義者・キリスト者の良心が貫かれている。

買賣春の歴史、廃娼を目指した人々の苦闘を知る上で恰好の書。

推薦の「ことば」(順不同)

一人一人の意識改革を

高橋喜久江(日本キリスト教婦人矯風会)

売春防止法成立四〇周年にあたるこの年に不一出版による「買売春問題資料集成」が刊行されること、運動をすすめるものとして意義を改めて感じさせられる。

大部にわたる刊行は多くの努力を要したであろうが、矯風会関係者としては矯風会に埋っていたものがひろく世に出されることは嬉しい。また関東大震災・戦災と一度の災禍で矯風会本部には残されていないものが、岸和田の山岡家に保存されていてここに採録されることも感謝である。矯風会員山岡春や家族の意志と研究者関係者の努力が実り、物理的な条件が幸いして保存と公表が可能になつたといえよう。

資料集の刊行が意図するものは、まさに「温故知新」のことばに凝縮される。過去の資料を通して眼光紙背に徹すれば、現在にいたる問題の本質がみえてこよう。近年、国際的にも注目されている日本軍「慰安婦」問題、それ以前の来日女性問題やセックス・ツアーなどが過去と根を共にすることは、買春容認という日本社会の本質である。それを象徴するのが政府の採る公娼制度である。

一人一人が学ぶことによつて問題の本質を理解し意識改革をする。人権意識をかめることが、問題解決のみちであると考えるものである。

廃娼と存娼のはざまに祝える近代史

小倉襄二(同志社大学文学部名誉教授・大阪人間科学大学特任教授)

林屋辰三郎先生が日本の史的理諭の権要の場として地方史、部落史、女性史の

- 一四〇 公娼を廃止したあと行政 ●久布白落実
廃娼聯盟調査資料参照 ●一九三三・七
- 一四一 秋田県接客業者取締規則並 ●伊藤秀吉編
組合規約(廃娼資料第十五篇) ●一九三三・一
- 一四二 秋田県廃娼顛末 ●伊藤秀吉 ●一九三三・一
- 一四三 一九三四年新柄矯風会ゆかた ●一九三三・一二
- 一四四 売春問題対策協議会 ●星島二宅後藤松宮ほか
議事要録 ●一九三四・三
- 一四五 第四拾三回大会 ●小崎千代(日本基督教婦人矯風会)
執行順序 ●一九三四・四
- 一四六 日本基督教婦人矯風会
第四十三回大会代員氏名 ●一九三四・四
- 一四七 本部役員及部長報告 ●日本基督教婦人矯風会
昭和八年度 ●一九三四・四
- 一四八 営業問題対策協議会 ●矢嶋樹子先生誕百年記念
執行順序 ●一九三四・四
- 一四九 本部会計報告 ●日本基督教婦人矯風会
昭和八年度 ●一九三四・四
- 一五〇 本部役員及部長報告 ●日本基督教婦人矯風会
昭和九年度 ●一九三四・四
- 一五一 本部会計報告 ●日本基督教婦人矯風会
昭和九年度 ●一九三四・四
- 一五二 今後に於ける我等の事業 ●風俗部 ●一九三四・四
- 一五三 廃娼抬錢袋一覽表 ●久布白落実
東京婦人ホーリム/昭和八年度報告 ●一九三四・四
- 一五四 日本基督教婦人矯風会本部附属
(第四十三回大会) ●一九三四・四
- 一五五 今後ノ方策 ●日本基督教婦人矯風会 ●一九三四・四
- 一五六 朝刊大会会新聞 ●日本基督教婦人矯風会東京部会
(第四十三回大会) ●一九三四・四
- 一五七 矢島樹子生誕百年記念式順序 ●一九三四・四
- 一五八 矢島樹子生誕百年記念(*絵はがき) ●一九三四・四
- 一五九 宣言会会歌 ●作歌=青木歌子 ●一九三四・四
- 一六〇 日本基督教婦人矯風会一覽 ●一九三四・四
- 一六一 東京婦人ホーリム ●日本基督教婦人矯風会
第一号 ●一九三四・八
- 一六二 最近の廃娼運動 ●松宮弥平 ●一九三四・一二
- 一六三 一九三五年新柄矯風会ゆかた ●一九三五・一
- 一六四 純潔運動の機構 ●國民純潔同盟 売春防止協会 純潔協会
一六五 西暦一九三四年(昭和九年度) ●大阪婦人ホーリム
基督教婦人矯風会大阪支部年報 ●一九三五・四
- 一六六 売られ行く娘の問題 ●三浦精翁 ●一九三五・一二
- 一六七 一九三六年新柄矯風会ゆかた ●一九三六・一
- 一八八 一九三六年新柄矯風会ゆかた ●一九三六・一
- 一八九 会務便り ●久布白落実 ●一九四四・八
- 一九〇 存娼実際論 ●村山儀七 ●一八九〇・三
第一号
- 一九一 娼妓論 ●高木五十太 ●一八九〇・三
- 一九二 新版 娼妓之味方 ●所叔子 ●一八九〇・五
一名 存娼論
- 一九三 明治世纪存娼新論 ●冷眼居士 ●一八九一・一
- 一九四 貸座敷渡世並遊女玄妓 ●久保断三 ●一八七五・二
賦金(第二十七号)
- 一九五 貸座敷渡世並遊女玄妓 ●久保断三 ●一八七五・三
願書々式(第二十三号)
- 一九六 妓妓並玄妓代定価 ●郵上松太郎 ●一八七七・八
- 一九七 改正規則貸座敷妓妓心得 ●玄根至宣編 ●一八八四・二
- 一九八 島原五業組合規約書 ●下京区第拾六組島原遊所
速記録 ●市川伊三郎 ●一九三五・九
- 一九九 日本公娼制度論 ●大隈未広 ●一九三五
- 二〇〇 全国貸座敷聯合公会臨時大会記録
附陳情運動 対議會運動/有志議士の存娼工作/臨時大會
米賀貴衆両院議員演説速記録/第六七回帝国議会公娼問題議事
速記録 ●市川伊三郎 ●一九三五・九
- 二〇一 妓妓存廢の断案 ●竹内楠三戸水寛人・土肥羊次郎ほか
二〇二 妓妓存廢内外大家論集 ●本田典太郎・梅津次郎ほか
二〇三 妓妓か存娼か ●丸山要 ●一九二五・二
- 二〇四 公娼制度改善に関する私見 ●宇津七郎 ●一九二六・六
公娼第一卷第一号 ●公娼制度研究会 ●一九二六・一〇
- 二〇五 公娼 第一卷第一号 ●公娼制度研究会 ●一九二六・一〇
- 二〇六 法律の觀たる娼制度 ●本村宇佐治 ●一九二七・一
- 二〇七 公娼存廢論に對する ●氏原佐蔵・高木乙熊・副見喬雄
厳正批判 ●有雅亭雨 ●一九二九・三
- 二〇八 全国貸座敷聯合公会臨時大会記録
附陳情運動 対議會運動/有志議士の存娼工作/臨時大會
米賀貴衆両院議員演説速記録/第六七回帝国議会公娼問題議事
速記録 ●市川伊三郎 ●一九三五・九
- 二〇九 新吉原遊廓略史 ●市川伊三郎 ●一九三六・二
- 二一〇 売春問題と女性 ●小島光枝 ●一九三六・二
- 二一一 今里新地十年史 ●黒阪雅之 ●一九四〇・九
- 二一二 今里新地十年史 ●黒阪雅之 ●一九四〇・九
- 二一三 貸座敷渡世並遊女玄妓 ●久保断三 ●一八七五・二
賦金(第二十七号)
- 二一四 貸座敷遊女玄妓渡世 ●久保断三 ●一八七五・三
- 二一五 妓妓並玄妓代定価 ●郵上松太郎 ●一八七七・八
- 二一六 改正規則貸座敷妓妓心得 ●玄根至宣編 ●一八八四・二
- 二一七 島原五業組合規約書 ●下京区第拾六組島原遊所
速記録 ●市川伊三郎 ●一九三五・九
- 二一八 貸座敷引手茶屋妓妓 ●渡部織衛編 ●一八八七・四
取締規則俗解
- 二一九 組合規約書 ●京都市下京区七条新地区域五業取締事務所
二二〇 妓妓紹介人取締規則 ●成川尚義 ●一八九四・三
- 二二一 妓妓紹介人取締規則 ●成川尚義 ●一八九四・三
- 二二二 妓妓紹介人取締規則 ●成川尚義 ●一八九四・三

買賣春問題 関連年表

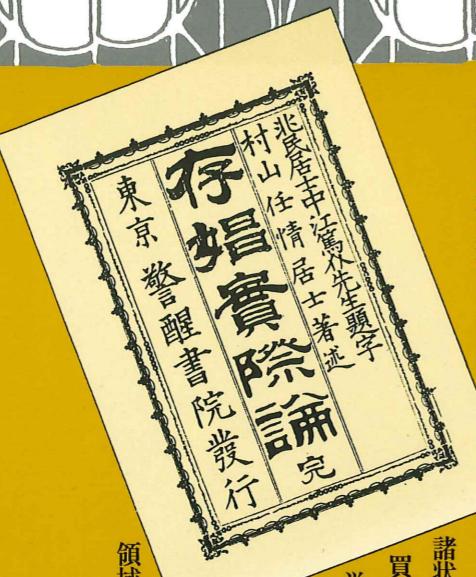
年号	事件
明治一九〇六年・十二月	東京婦人矯風会設立。会頭は矢島桜子
明治一九年	群馬県、廢娼案を可決
明治一九年・十一月	群馬県、廢娼案を可決
明治一九年・五月	全国廢娼同盟会結成
明治一九年・九月	矯風会、全國組織の日本婦人矯風会と改称
明治一九年・十月	矯風会、在外売淫婦取締法制定に関する請願書を提出
明治一九年・四月	貴族両院と政府に提出
明治一九年・七月	矯風会、姦通罪制定及び海外「醜業婦」取締の請願書を提出
明治一九年・九月	群馬県、廢娼を実施
明治一九年・十月	矯風会、身を売られようとしている女性救済のための施設、慈愛館を設立
明治一九年・十一月	救世軍の自由廢業運動・二六新報社の廢娼運動が樓主と衝突
明治一九年・十二月	名古屋でU・Gモルフイが自由廢業運動を開始
明治一九年・一月	矯風会、姦妓取締規制発布、一八歳未満の娼妓を禁止
明治一九年・二月	矯風会、在外賣春婦取締法制定と男性の姦通罪制定の請願を衆議院に提出
明治一九年・三月	大阪曾根崎遊廓全焼。大阪婦人矯風会遊廓再建反対運動
明治一九年・四月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に関する陳情書を内閣大臣に提出。遊廓再建反対運動をおこす
明治一九年・五月	矯風会結成。機関誌『鷗清』発行
明治一九年・六月	大阪難波新地遊廓大火消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
明治一九年・七月	府令により同遊廓廃止
明治一九年・八月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
明治一九年・九月	洲崎遊廓消失。鷗清会、再建反対運動
明治一九年・十月	大阪婦人矯風会、飛田遊廓設置許可反対運動
明治一九年・十一月	娼妓擴張。鷗清会、反対運動を開始
明治一九年・十二月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に反対して母親デモ
大正二年・一月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
大正二年・二月	府令により同遊廓廃止
大正二年・三月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
大正二年・四月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に関する陳情書を内閣大臣に提出。遊廓再建反対運動をおこす
大正二年・五月	矯風会結成。機関誌『鷗清』発行
大正二年・六月	大阪難波新地遊廓大火消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
大正二年・七月	府令により同遊廓廃止
大正二年・八月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
大正二年・九月	洲崎遊廓消失。鷗清会、再建反対運動
大正二年・十月	大阪婦人矯風会、飛田遊廓設置許可反対運動
大正二年・十一月	娼妓擴張。鷗清会、反対運動を開始
大正二年・十二月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に反対して母親デモ
昭和二年・一月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和二年・二月	府令により同遊廓廃止
昭和二年・三月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和二年・四月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に関する陳情書を内閣大臣に提出。遊廓再建反対運動をおこす
昭和二年・五月	矯風会結成。機関誌『鷗清』発行
昭和二年・六月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和二年・七月	府令により同遊廓廃止
昭和二年・八月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和二年・九月	洲崎遊廓消失。鷗清会、再建反対運動
昭和二年・十月	大阪婦人矯風会、飛田遊廓設置許可反対運動
昭和二年・十一月	娼妓擴張。鷗清会、反対運動を開始
昭和二年・十二月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に反対して母親デモ
昭和三年・一月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和三年・二月	府令により同遊廓廃止
昭和三年・三月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和三年・四月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に関する陳情書を内閣大臣に提出。遊廓再建反対運動をおこす
昭和三年・五月	矯風会結成。機関誌『鷗清』発行
昭和三年・六月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和三年・七月	府令により同遊廓廃止
昭和三年・八月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和三年・九月	洲崎遊廓消失。鷗清会、再建反対運動
昭和三年・十月	大阪婦人矯風会、飛田遊廓設置許可反対運動
昭和三年・十一月	娼妓擴張。鷗清会、反対運動を開始
昭和三年・十二月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に反対して母親デモ
昭和四年・一月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和四年・二月	府令により同遊廓廃止
昭和四年・三月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和四年・四月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に関する陳情書を内閣大臣に提出。遊廓再建反対運動をおこす
昭和四年・五月	矯風会結成。機関誌『鷗清』発行
昭和四年・六月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和四年・七月	府令により同遊廓廃止
昭和四年・八月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和四年・九月	洲崎遊廓消失。鷗清会、再建反対運動
昭和四年・十月	大阪婦人矯風会、飛田遊廓設置許可反対運動
昭和四年・十一月	娼妓擴張。鷗清会、反対運動を開始
昭和四年・十二月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に反対して母親デモ
昭和五年・一月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和五年・二月	府令により同遊廓廃止
昭和五年・三月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和五年・四月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に関する陳情書を内閣大臣に提出。遊廓再建反対運動をおこす
昭和五年・五月	矯風会結成。機関誌『鷗清』発行
昭和五年・六月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和五年・七月	府令により同遊廓廃止
昭和五年・八月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和五年・九月	洲崎遊廓消失。鷗清会、再建反対運動
昭和五年・十月	大阪婦人矯風会、飛田遊廓設置許可反対運動
昭和五年・十一月	娼妓擴張。鷗清会、反対運動を開始
昭和五年・十二月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に反対して母親デモ
昭和六年・一月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和六年・二月	府令により同遊廓廃止
昭和六年・三月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和六年・四月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に関する陳情書を内閣大臣に提出。遊廓再建反対運動をおこす
昭和六年・五月	矯風会結成。機関誌『鷗清』発行
昭和六年・六月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和六年・七月	府令により同遊廓廃止
昭和六年・八月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和六年・九月	洲崎遊廓消失。鷗清会、再建反対運動
昭和六年・十月	大阪婦人矯風会、飛田遊廓設置許可反対運動
昭和六年・十一月	娼妓擴張。鷗清会、反対運動を開始
昭和六年・十二月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に反対して母親デモ
昭和七年・一月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和七年・二月	府令により同遊廓廃止
昭和七年・三月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和七年・四月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に関する陳情書を内閣大臣に提出。遊廓再建反対運動をおこす
昭和七年・五月	矯風会結成。機関誌『鷗清』発行
昭和七年・六月	大阪難波新地遊廓消失。矯風会、ただちに廃止運動開始
昭和七年・七月	府令により同遊廓廃止
昭和七年・八月	矢島桜子ら提出の在外賣春婦取締法制定請願、衆議院で可決
昭和七年・九月	洲崎遊廓消失。鷗清会、再建反対運動
昭和七年・十月	大阪婦人矯風会、飛田遊廓設置許可反対運動
昭和七年・十一月	娼妓擴張。鷗清会、反対運動を開始
昭和七年・十二月	吉原全焼。矯風会、公娼廃止に反対して

[第4卷]

一九一九年昭和六年度
廓清会婦人矯風会廃娼聯明報告 一九三二・六
一二〇 昭和六年度
●郭青會婦人矯風會廃娼聯盟
●一九三二・六

現代の人権問題を考えるために

竹村民郎（大阪産業大学教授）



フランス革命以降歐米諸国における人権は、諸国民の価値観にかかわる中心的テーマとなつた。日本の市民運動もまた明治維新以降人権の重要性についての歐米市民社会の価値観を積極的に受容してきた。しかし日本の政府は公娼制度廢止を前提として、伝統的な男性上位社会を改革し、男女平等の原則に立つた平等な社会を成立させるつもりなどはまつたくなかつた。

したがつて日本の廢娼運動は一九世紀中葉から一貫して、官憲や売春業者たちに

したがつて日本の廢娼運動は一九世紀中葉から一貫して、官憲や売春業者たちに

フランス革命以降欧米諸国における人権は、諸国民の価値観にかかわる中心的テーマとなつた。日本の市民運動もまた明治維新以降人権の重要性についての欧米市民社会の価値観を積極的に受容してきた。しかし日本の政府は公娼制度廢止を前提として、伝統的な男性上位社会を改革し、男女平等の原則に立った平社會を成立させるつもりなどはまったくなかつた。

一等な

占領軍のための特殊慰安婦施設協会を設立	四六年・一
GHQによる公娼制度廃止命令	五二年・十二
壳春処罰法制定促進委員会発足。	五六年・五月
翌年壳春禁止法制定促進委員会に改称	五八年・四月
壳春防止法成立、公布	一〇・一〇
壳春対策国民協議会結成	
壳春防止法施行	

人権擁護闘争の誇るべき伝統の一角を形成したのである。近年いわゆる情報化社会との関連で、近代が生みだした諸思想が批判的とされてきた。人権思想もまた例外ではなかつた。しかし現在も続く買売春の問題や「従軍慰安婦」をめぐる誤った歴史認識の存在を考えると、廃娼運動史を正しく認識するこことなしに、われわれは現代を批判できるだろうか。

不二出版が復刻した『買賣春問題資料集成』(戦前編)は、現代における価値観の再構成を進める上で、必須のテキストであるといえよう。



性奴隸として生きた女たちの状況

「売られたものなら年季があるが、嫁には年季がないのがつらかった」と、戦前の青鞆社によりつどった女たちが、「新しい女」と嘲弄されながら、人間の尊厳にとづく恋愛と結婚の自由を求めて身じろいでいた同じ時期、一般的な女たちはどのような状況に居たのか、その実態をたずねる旅の中で聞いた言葉だった。差別が重層化され、生活文化の型となつていて、より差別きびしい状況にいる人たちを見て、わが身の差別状況をなだめるメンタリティが、人びとに一般化されている。

法制上、人身売買は禁じられていても、前借による年季奉公の名目で、性奴隸と

現在の「性の商品化」をみつめるために

江原由美子(東京都立大学教授)

売買春問題には、性関係・雇用関係・市場関係などの社会関係が、一つの糸のようによりあわされています。同じ問題でも、たとえばそれを性暴力問題として見るか、労働問題として見るかによって、見えるものが全く異なつてゐるかも知れません。特定の立場から見ると、女性の立場から見るか、男性の立場から見るかによって、あるいはどの女性の立場から見ると、見えるものが異なつてしまつかも知れません。女性の立場から見ると、男性の立場から見るかによつて、売買春問題を把握することは大変困難な問題です。けれども、だからこそ売買春問題は、その社会の社会問題の多くを凝縮しているのです。売買春問題とは、単に「社会の病理現象」ではありません。それはまさにその社会の「ジェンダーと権力」の構造を凝結した問題だと思います。こうした現在の「性の商品化」問題をみつめるためにも、この資料集成は大変有意義だと思います。

第1巻

各卷内容一覧	資料名(書名)/編著者名/発行年月
[第1巻]	
1 神奈川県遊女条令	大江卓一・一八七二・一〇
2 娼妓芸妓解放資料	大久保一翁・一八七三・一二
3 坂橋全廃	嚴本善治・一八八九・一二
4 廉娼存娼大議論之結局	愛國余史・一八八九・一二
5 上毛青年の初陣	塚越芳太郎・一八九〇・三
6 公娼可減	島田三郎 嚴本善治・一八九〇・四
7 廉娼論 教育と廉娼との関係	林再蔵・一八九〇・五
8 公道余論	大日本護法協会本部・一八九〇・七
9 廉娼同盟会演説集	飯野・金森・宮川・イビー・大江・植木・根本・正義の反響
10 公娼可減	島田三郎 嚴本善治・一八九〇・八
11 廉娼論	教育と廉娼との関係
12 廉娼論 教育と廉娼との関係	林再蔵・一八九〇・九
13 芸妓妓放逐論	油谷次郎七編・一八九五・五
14 芸妓妓放逐論	倉内鉄次郎・一九〇〇・六
15 娼妓と人権	和田鐵司・編・一九〇〇・九
16 娼妓に与ふる文 ユー・ジー・モルフ・述	一九〇〇・一〇
17 廉娼之急務	島田三郎・木下尚江・一九〇〇・一〇
18 廉娼唱歌	群馬県の醜業婦
19 廉娼之急務	島田三郎・木下尚江・一九〇一・一〇
20 廉娼唱歌	群馬県の醜業婦
21 廉娼之急務	島田三郎・木下尚江・一九〇一・一〇
22 廉娼之急務	島田三郎・木下尚江・一九〇一・一〇
23 青年必読公娼退論	安藤陽洲・一九一・七
24 公娼廃止論	大限重信述
25 此羅災者を救へ	(廓清叢書第一巻) 益富政助・述・一九一・一

第2巻

各卷内容一覧	資料名(書名)/編著者名/発行年月
[第2巻]	
1 貸座敷業者への忠告	山室軍平・述・一九一・二・三
2 廉娼会組織の趣意	島田三郎・述・一九二・一・五 (廓清叢書第五巻)
3 風紀問題としての公娼制度	安部穂雄・述・一九二・一・五 (廓清叢書第六巻)
4 欧洲諸国醜業公認	モーリス・グレゴリー・ 一九二・一・二
5 制度廃止運動	島浦有志太郎・一九一・四・五
6 廉娼自由廢業案内	西村・松浦・益富・小崎・伊藤・白秋 (廓清第四卷一〇・一・二号)・一九一・四・一〇
7 飛田遊廓反対意見	伊藤秀吉・一九一・六・一〇
8 公娼私娼全廃の理由	日本基督教婦人矯風会 一九一・七・三
9 公娼全廢教育運動	基督教婦人矯風会・一九一・七
10 不幸女の救護	山室軍平・一九一・七・九
11 公娼研究	上村行彰・一九一・八・九
12 廉娼反対意見	上村行彰・一九一・八・九
13 公娼全廢教育運動	基督教婦人矯風会・一九一・八
14 キリスト教婦人矯風会	一九二・〇・四
15 第廿八回大阪婦人矯風会報告	一九二・〇・四
16 公娼全廢教育運動	基督教婦人矯風会・一九一・八
17 公娼研究	上村行彰・一九一・八・九
18 公娼全廢教育運動	基督教婦人矯風会・一九一・八
19 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会・編 第一輯 天草島原之部
20 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・〇・六
21 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
22 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
23 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
24 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
25 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
26 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
27 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
28 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
29 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
30 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
31 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
32 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
33 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
34 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
35 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
36 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
37 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
38 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
39 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
40 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
41 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
42 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
43 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
44 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
45 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
46 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
47 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
48 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
49 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一
50 公娼全廢教育運動	日本基督教婦人矯風会 一九二・一

第3巻

各卷内容一覧	資料名(書名)/編著者名/発行年月
[第3巻]	
1 公娼存廢問題と時論	川崎正子・編・一九二・六・六 (群馬県警察部発表書)
2 公娼存廢問題と存娼論との対照	川崎正子・一九二・六・六
3 人の肉と心を売買するもの	一九二・五・三 (基督教興文協会編輯局・編)
4 The System of Licensed Prostitution in Japan	宮崎小八郎・一九三・五・八
5 日本の公娼制度	伊藤秀吉・一九二・五・八
6 国際聯盟と醜業婦人売買問題	安部穂雄・一九二・五・九
7 附交渉額未定約正文及輿論班	安部穂雄・一九二・五・九
8 媒妓廢業のすゝめ	山室軍平・一九二・五・一
9 媒妓花柳病及接客業婦調査	松宮弥平・一九二・五・二
10 公娼存廢問題と時論	川崎正子・一九二・六・六 (群馬県警察部発表書)
11 人の肉と心を売買するもの	一九二・五・三 (基督教興文協会編輯局・編)
12 The System of Licensed Prostitution in Japan	宮崎小八郎・一九三・五・八
13 日本の公娼制度	伊藤秀吉・一九二・五・八
14 国際聯盟と醜業婦人売買問題	安部穂雄・一九二・五・九
15 附交渉額未定約正文及輿論班	安部穂雄・一九二・五・九
16 媒妓花柳病及接客業婦調査	松宮弥平・一九二・五・二
17 公娼存廢問題と時論	川崎正子・一九二・六・六 (群馬県警察部発表書)
18 人の肉と心を売買するもの	一九二・五・三 (基督教興文協会編輯局・編)
19 The System of Licensed Prostitution in Japan	宮崎小八郎・一九三・五・八
20 日本の公娼制度	伊藤秀吉・一九二・五・八
21 国際聯盟と醜業婦人売買問題	安部穂雄・一九二・五・九
22 附交渉額未定約正文及輿論班	安部穂雄・一九二・五・九
23 媒妓花柳病及接客業婦調査	松宮弥平・一九二・五・二
24 公娼存廢問題と時論	川崎正子・一九二・六・六 (群馬県警察部発表書)
25 人の肉と心を売買するもの	一九二・五・三 (基督教興文協会編輯局・編)
26 The System of Licensed Prostitution in Japan	宮崎小八郎・一九三・五・八
27 日本の公娼制度	伊藤秀吉・一九二・五・八
28 国際聯盟と醜業婦人売買問題	安部穂雄・一九二・五・九
29 附交渉額未定約正文及輿論班	安部穂雄・一九二・五・九
30 媒妓花柳病及接客業婦調査	松宮弥平・一九二・五・二
31 公娼存廢問題と時論	川崎正子・一九二・六・六 (群馬県警察部発表書)
32 人の肉と心を売買するもの	一九二・五・三 (基督教興文協会編輯局・編)
33 The System of Licensed Prostitution in Japan	宮崎小八郎・一九三・五・八
34 日本の公娼制度	伊藤秀吉・一九二・五・八
35 国際聯盟と醜業婦人売買問題	安部穂雄・一九二・五・九
36 附交渉額未定約正文及輿論班	安部穂雄・一九二・五・九
37 媒妓花柳病及接客業婦調査	松宮弥平・一九二・五・二
38 公娼存廢問題と時論	川崎正子・一九二・六・六 (群馬県警察部発表書)
39 人の肉と心を売買するもの	一九二・五・三 (基督教興文協会編輯局・編)
40 The System of Licensed Prostitution in Japan	宮崎小八郎・一九三・五・八
41 日本の公娼制度	伊藤秀吉・一九二・五・八
42 国際聯盟と醜業婦人売買問題	安部穂雄・一九二・五・九
43 附交渉額未定約正文及輿論班	安部穂雄・一九二・五・九
44 媒妓花柳病及接客業婦調査	松宮弥平・一九二・五・二
45 公娼存廢問題と時論	川崎正子・一九二・六・六 (群馬県警察部発表書)
46 人の肉と心を売買するもの	一九二・五・三 (基督教興文協会編輯局・編)
47 The System of Licensed Prostitution in Japan	宮崎小八郎・一九三・五・八
48 日本の公娼制度	伊藤秀吉・一九二・五・八
49 国際聯盟と醜業婦人売買問題	安部穂雄・一九二・五・九
50 附交渉額未定約正文及輿論班	安部穂雄・一九二・五・九

して売られた女たちは、男たちの抑圧をはらす玩弄物であると共に、年季はなくとも人の人たちよりも、嫁という名の家内奴隸的女たちの抑圧のきびしさをなだめる役割もまた果たしていたことを、このとき気がつかれた。男中心の天皇制支配構造の細胞組織である「家制度」と、近代日本の国是である「富国強兵」「殖産興業」を、性奴隸として、差別の最底辺で担わされた女たちの状況を、あきらかにしない限り、近代日本のまことの姿は、たしかなかたちで見え難い。

廃娼存娼のうごきを網羅、その他の資料もあまた集録、近代日本の買賣春問題をあきらかにした本資料集成は、性状況に反映する人間疎外の状況もまたあきらかにしている。